釧路の教育を考える会

教育コラム vol.9

何度でも学び直しのできる社会へ

氏名 添田 祥史（そえだ よしふみ）
北海道教育大学釧路校講師
釧路自主夜間中学「くるかい」事務局長

いま、子ども達を取り巻く環境は大きく変化しています。学力低下や学力格差をはじめ、いじめ、非行・犯罪の低年齢化、教員の資質向上、家庭の教育力の低下など、教育を巡る問題を市民一人ひとりが真剣に考え、学校や家庭だけでなく地域全体で子ども達を育てる取組みが求められています。釧路の教育を考える会は、釧路の子ども達の確かな未来のために教育課題の解決に向けて、積極的に提言し行動しようと集まった市民有志による団体です。

■夜間中学をご存じですか？

今日の日本社会においても、学齢期に十分な基礎教育を受けることができなかった人が少なくありません。そうした人々の学び直しを保障する機関として公立夜間中学校があります。しかし、公立夜間中学校は、東京と大阪を中心に全国で35校しかなく、北海道、東北、四国、九州にはゼロです。そうしたなかで、自主夜間中学とよばれる団体が地道な活動を続けています。自主とあるのは、市民によるボランタリーな組織だということです。自主夜間中学は、全国で25団体ほど確認できます。

釧路自主夜間中学「くるかい」は、そうした自主夜間中学の一つで、2009年春に開校しました。スタッフは、教職経験者、会社員や公務員、専業主婦、大学生とさまざまです。一方的に教える側にたつのではなく、共に学びあう仲間だという姿勢を大事にしながら、毎週火曜日の夕方、釧路市立総合福祉センターを会場に活動しています。現在、実質的な参加者は、学習者が25名、スタッフもほぼ同数です。

■基礎学力不足のまま社会に出るということ

基礎学力不足は、生き方の幅、人生の選択肢を狭めてしまいます。ある若者の例です。中学時代、地元でも有名な「ワル」だった彼も、今では立派な社会人です。仕事ぶりはまじめで、本人も上司も正社員になることを望んでいます。しかし、それが叶わない。正社員採用の条件として課されている職務上必要な最低限度の資格を持っていないからです。何回か受験しているけれども、どうしても合格できない。なぜか。理由は、基礎の基礎でつまずいていたからでした。筆算の計算がおぼつかない。

基礎学力不足のもう一つの問題点は、その負い目が、自らの能力や人生を過小評価させてしまうことです。私が気になったのは、彼が「今」しか語らないことでした。彼との会話には、未来の話はほとんどない。「今の給料では車なんて無理。車がないから彼女もできない。できても遊びにいく金がないけど。どうせ金がないからなにもできない。結婚なんて無理」。そして、過去を語るわけでもありません。中学時代の「ワル」の武勇伝を誇らしげに聞かせてくれることもない。日常に対するあきらめが、未来をも曇らせ、彼の歩んできた過去にまで侵食している。彼と話しているとそういった印象を受けます。

■何度でも学び直しのできる社会へ

彼は、資格試験が近づくと「くるかい」の活動日以外でも、担当スタッフと試験勉強に励むようになりました。直前になると毎日机に向かったそうです。「今まで試験はえんぴつを転がして答えを決めてきた。こんなに勉強したことは初めてだと言っていました。結果は、残念ながら不合格でしたが、少し休んで、また頑張るとのことです。

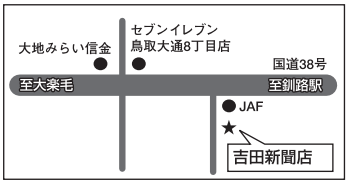
しかし、働きながらの学び直しは大変です。周りの支えと理解がないと本人のやる気は続きません。学習時間も、週1回の「くるかい」だけでは少なすぎます。自習で補うにも、基礎からやり直したい人は、勉強のやり方自体がわからない。

今の日本では、基礎教育を学べるチャンスは1回限りです。学齢期にきちんと学校で基礎学力を保障していく。それと同時に、学びのセーフティネットを重層的に用意していく必要があります。学び直しを個人の責任として閉じてしまうのではなく、社会として支える仕組みづくりが、今、求められています。

～新学習指導要領～

学習指導要領では、「生きる力」に重点を置き、改定されます。2011年4月より小学校で、2012年4月より中学校で新聞を使った授業が始まります。活字に触れる習慣を付けることで、読解力、読む力が養われます。

このコラムは、吉田新聞店が『釧路の教育を考える会』に依頼して連載をしていきます。

㈱ マルカツ 吉田新聞店

釧路市鳥取大通8丁目1番5号　TEL 51-2773・FAX 51-2885 0120-715-104
営業時間：平日／午後8時迄、日曜・祝日／正午迄 時間外は留守番電話にてお受け致します